

第5回 固有空間



1. 部分空間

部分空間の定義

$W \subset \mathbb{C}^n$ (or \mathbb{R}^n): 部分 (線型) 空間

$\stackrel{\text{def}}{\iff}$ 以下の3つを満たす:

- (1) $\mathbf{0} \in W$
- (2) $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in W \implies \mathbf{x} + \mathbf{y} \in W$
- (3) $\mathbf{x} \in W, c \in \mathbb{C}$ (or \mathbb{R}) $\implies c\mathbf{x} \in W$

基底の定義

$W \subset \mathbb{C}^n$: 部分空間, $\mathcal{S} = \langle \mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_k \rangle$: W のベクトルの列

このとき, \mathcal{S} が W の基底

$\stackrel{\text{def}}{\iff}$ 次の2つを満たす:

- (1) $\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_k$: 線型独立
- (2) W のベクトルは \mathcal{S} の線型結合で表わせる

性質

- $\{\mathbf{0}\}$ 以外の全ての部分空間には基底がある
- $\langle \mathbf{u}_1, \dots, \mathbf{u}_k \rangle$ が部分空間 W の基底ならば, W のどんな基底も k 個のベクトルから成る

このとき $\dim W = k$ と定めて W の次元という。

2. 固有空間

A : n 次正方行列, α : A の固有値

このとき, \mathbb{C}^n の部分集合 $V(\alpha) = \{\mathbf{v} \in \mathbb{C}^n \mid A\mathbf{v} = \alpha\mathbf{v}\} \cup \{\mathbf{0}\}$ は部分空間

$V(\alpha)$ を A の固有値 α に関する固有空間という。

性質

- α, β : A の固有値, $\alpha \neq \beta \implies V(\alpha) \cap V(\beta) = \{\mathbf{0}\}$
- α : A の固有値, m : α の重複度 $\implies \dim V(\alpha) \leq m$

定理

A : 対角化可能 $\iff A$ の固有ベクトルによる \mathbb{C}^n の基底がとれる